

第三時課

△三時課から始める場合はここから▽

司祭 我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。

誦経者誦す、「アミン」。

我等の神よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。

天の王、慰むる者よ、眞實の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者よ、萬善の寶藏なる者、生命を賜ふ主よ、來りて我等の中に居り、我等を諸の穢より潔くせよ、至善者よ、我等の靈を救ひ給へ。

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給へ、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

天に在す我等の父よ、願はくは爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が

日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給へ、我等を誘に導かず、猶我等を凶悪より救ひ給へ。

司祭 蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に。

誦經 「アミン」。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

へ一時課から続けるときはここから

來れ、我等の王・神に叩拜せん。

來れ、ハリストス我等の王・神に叩拜俯伏せん。

來れ、ハリストス我等の王と神の前に叩拜俯伏せん。

第16聖詠

主よ、私の直を聴き、私の呼ぶを聆き納れ、偽なき口より出づる禱を受け給へ。願はくは我を糺す判は爾の顔より出で、爾の目は義に注がらん。爾は已に我が心を験し、夜中に臨み、我を試みて得たる所なし、我が口は私の思に離れず、

人の行爲に於ては、我爾が口の言に循ひて、迫害者の途を慎めり。我が歩を爾の路に固めよ、我が足の蹶かざらん爲な

り。神よ、我爾に籲ぶ、蓋爾我に聽かん。爾の耳を我に傾けて、我が言を聆き給え。爾を頼む者を爾の右の手に敵する者より救ふ主よ、爾の妙なる憐を顯し給へ。我を眸子の如く護れ、爾が翼の蔭を以て、我を攻むる不虔者の面、我を環る我が靈の敵より我を覆ひ給へ。彼等は己の脂に包まれ、己の口にて高ぶり言ふ。今我が歩む度に我等を環り、目に狙ひて、地に顛さんと欲す。彼等は獲物を貪る獅の如く、隠なる處に蹲る小獅の如し。主よ、起きよ、彼等に先だちて彼等を殪し、爾の劍を以て我が靈を不虔者より救へ、主よ、爾の手を以て人即世の人より救ひ給へ。彼等の業は今生にあり、爾は爾の寶藏より其腹を充たし、彼等の子は饜きて、餘を其裔に残さん。惟我は義を以て爾の顔を見んとす、覺め起きて爾の容を以て自ら饜き足らん。

第24聖詠

主よ、爾に我が靈を擧ぐ。吾が神よ、爾を待む、我に世世愧なからしめよ、我が敵を我に勝ちて喜ばしむる母れ。凡そ爾を待む者にも愧なからしめ給へ、妄に法を犯す者は願はくは愧を得ん。主よ、我に爾の道を示し、我に爾の道を訓えよ。我を爾の眞理に導きて、我を訓へ給へ、蓋爾は我が救の神なり、我日日に爾を待めり。主よ、爾の鴻恩と爾の慈憐とを記憶せよ、蓋是れ永遠よりあるなり。我が少き時の罪と過とを記憶する母れ、主よ、爾の仁慈に依り、爾の慈憐を以て、我を記憶せよ。主は仁なり、義なり、故に罪人に道を訓へ示す、謙遜の者を義に導き、謙遜の者に己の道を教ふ。凡そ主の道は其約と其啓示とを守る者に在りて慈憐なり、眞實なり。主よ爾の名に因りて我が罪を許し給へ、其大なるを以てなり。

誰か主を畏るる人たる、主は之に擇ぶべき道を示さん。彼の靈は福に居り、彼の裔は地を嗣がん。主の奥義は彼を畏るる者に属し、彼は其約を以て之に顯す。我が日常に主を仰ぐ、其我が足を網より出すに因る。我を顧み、我を憐め、我獨にして苦めらるるに因る。我が心の憂益多し、我が苦難より我を引き出せ、我が困苦、我が勞瘁を顧み、我が諸の罪を赦し給へ。我が敵を觀よ、何ぞ多き、彼等が我を怨む恨みは何ぞ甚しき。我が靈を護りて我を救ひ、我が爾に於ける恃に愧なからしめ給へ。願はくは無玷と義とは我を護らん、我爾を待めばなり。神よ、イズライリを其諸の憂より救ひ給へ。

第50聖詠

神よ、爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が恵の多きに因りて我の不法を抹し給へ。屢我を我が不法より洗ひ、我が罪より清め給へ、蓋我は我が不法を知る、我の罪は常に我が前に在り。我は爾獨爾に罪を犯し、悪を爾の目の前に行へり、爾は爾の審断に義にして、爾の裁判に公なり。視よ、我は不法に於て妊まれ、我が母は罪に於て我を生めり。視よ、爾は心に眞實のあるを愛し、我が衷に於て智慧を我に顯せり。「イツソプ」を以て我に沃げ、然せば我潔くならん、我を滌へ、然せば我雪より白くならん。我に喜と樂とを聞かせ給へ、然せば爾に折られし骨は悦ばん。爾の顔を我が罪より避け、我が盡くの不法を抹し給へ。神よ、潔き心を我に造れ、正しき靈を我の衷に改め給へ。我を爾の顔より逐ふこと母れ、爾の聖神を我より取り上ぐること母れ。爾が救の喜を我に還せ、主宰たる神を以て我を固め給へ。我不法の者に爾の道を教へん、不虔の者は爾に歸らんとす。神よ、我が救の神よ、我を血より救ひ給へ、然せば我が舌は爾の義を

讃め揚げん。主よ、我が唇を啓け、然せば我が口は爾の讚美を揚げん、蓋爾は祭を欲せず、欲すれば我之を獻らん、爾は燔祭を喜ばず。神に喜ばるる祭は痛悔の靈なり、痛悔して謙遜なる心は、神よ、爾輕んじ給はず。主よ、爾の恵に因りて恩をシオンに垂れ、イエルサリムの城垣を建て給へ。其時に爾義の祭、獻物と燔祭とを喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に犢を奠へんとす。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

「ア ril イヤ」 「ア ril イヤ」 「ア ril イヤ」、神よ、光榮は爾に歸す。三次

主憐めよ。三次

へカフィズマ省略、月7、火14、水3、木10、金19、第5週は月7、火15、水4、木9、金19

【三時課の讚詞】第六の調。

司祭 第三時に爾の至聖神を爾の使徒に遣しし至善の主よ、之を我等より取り上ぐること母れ、尚我等爾に祈る者のうちに之を新にせよ。

(詠) 同上繰り返す

(句) 神よ、潔き心を我に造れ、正しき靈を我の衷に改め給へ。

トロパリ 6調

第三時に 爾の至聖神を 爾の使徒に遣わしし 至善の
主よ、これを我等より取り上ぐることなかれ
尚、我等爾に祈る者のうちに、これをあらたにせよ

(詠) 同上繰り返す

(句) 我を爾の顔より逐ふこと母れ、爾の聖神を我より取り上ぐること母れ。

(詠) 同上繰り返す (歌ふ毎に伏拜)

司祭 光榮は父と子と聖神に歸す。

誦經 今も何時も世世に、「アミン」。

生神女よ、爾は實の葡萄の枝、我等の爲に生命の果を結びし者なり、女幸よ、爾に祈る、聖使徒と共に我が靈の憐を蒙らんことを祈り給へ。

主は日に崇め讃めらる。神は我等に重荷を負はすれども、亦我等を救ひ給ふ。神は我等の爲に救の神なり。

崇め讃めらるる哉ハリストス我等の神よ、爾は漁者に聖神を遣して智者と爲し、彼等を以て世界を漁し得たり。人を愛する主よ、光榮は爾に歸す。

光榮は父と子と聖神に歸す。

イイススよ、我等の靈の悶ゆる時、速にして眞なる慰を爾の諸僕に與へ給へ、憂の時我等の靈を離るる母れ、禍の時我等の心に遠ざかる勿れ、恒に我等を衛り給へ。我等に近づけ、在らざる所なき者よ、近づけよ、恩廣き者よ、常に爾の使徒と偕に在るが如く、我等爾を待む者と偕にし、我等に同一にして爾を歌ひ、爾が至聖の神を讚榮せしめ給へ。

今も何時も世世に、「アミン」。

至浄なる生神女よ、爾は「ハリストステイアニン」等の憑恃と轉達なり、避所と壞れざる城なり、弱れる者の爲に風なき湊なり、讚榮せらるる童貞女よ、爾は息めざる祈禱にて世を救ふ者なるを以て、我等をも記憶し給へ。

主憐めよ。十二次

何の日何の時に、天にも地にも叩拜讚榮せられ、寛忍、鴻慈、至善にして、義人を愛し、罪人を憐み、來世の福を約して、萬の者を救に招くハリストス神よ、爾主よ、親ら我が此の時の禱をも受け、我等の生命を爾の誠に向はしめ給へ、我等の靈を聖にし、體を潔くし、慮を直くし、思を淨くし、我等を悉くの憂と禍と疾より救ひ、爾の聖なる天使を以て我等を環り、我等が其圍に衛り導かれて、信の一なると爾の近づき難き光榮を悟るに至らせ給へ、蓋爾は世世に崇め讚めらる、「アミン」。

主憐めよ。三次

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

ヘルワイムより尊く、セラフイムに並なく榮え、貞操を壞らずして神言を生みし實の生神女たる爾を崇め讚む。

神父よ、主の名を以て福を降せ。

司祭 神よ、我等に恩を被らせ、我等に福を降し、爾が顔を以て我等を照し、並に我等を憐み給へ。

誦経 「アミン」。

【エフレムの祝文】

司祭 主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。叩拜一次

貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の僕に與へ給へ。叩拜一次

嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる「アミン」。叩拜一次

神よ、我罪人を浄め給へ。(叩拜二次)

主吾が生命の主宰よ、怠惰と、愁悶と、陵駕と、空談の情を我に與ふる勿れ。貞潔と、謙遜と、忍耐と、愛の情を我爾の

僕に與へ給へ。嗚呼主王よ、我に我が罪を見、我が兄弟を議せざるを賜へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。叩拜

一次

誦経 主宰神父全能者、主獨生の子イイススハリストス、及び聖神、惟一の神性、惟一の能力よ、我罪人を憐み、爾が知る

所の法を以て我不當の僕を救ひ給へ、蓋爾は世世に崇め讃めらる、「アミン」。